

前バージョン（V4.1）からの改善点

1. 高速ルビ振り機能の削除

Windows 更新プログラム適用後、自動ルビ振りアプリケーション（以下、本アプリ）からの Excel の関数呼び出しのオーバーヘッドが改善され、PHONETIC 関数（ふりがな変換）呼び出しが高速化されました。したがって本アプリの高速ルビ振り機能を廃止しました。

2. PHONETIC 関数による想定外エラーの対応

PHONETIC 関数で想定外の値を返す可能性がある場合、PHONETIC 関数の呼び出しをスキップするように文字コードのチェックを強化しました。

2. 1 PHONETIC 関数を実行すると、一部の記号に対してふりがなを返す

記号に対してふりがな変換を行わないことが前提で処理しますが、ローマ数字や「%」などの一部の記号にふりがな変換します。

例)

- 1) 「%」は「パーセント」を返す。

前バージョン：×「5. 5 %減」=>「5. 5 パーセントげん」

新バージョン：○「5. 5 %減」=>「5. 5 %げん」

- 2) ローマ数字（I、II、III など）は 洋数字（1、2、3 など）を返す。

前バージョン：×「I 型」=>「1 がた」

新バージョン：○「I 型」=>「I がた」

2. 2 「億」の次に半角数字が存在する文字列に対して空白を返す

例)

前バージョン：×「1 億 5 千万円」=>「」

新バージョン：○「1 億 5 千万円」=>「1 おく 5 せんまんえん」

3. ルビ振り時の変換辞書登録の条件を変更

前バージョンではモノルビが有効のとき、ルビ振り時に変換辞書登録が可能でした。

新バージョンではモノルビまたは構文解析拡張機能が有効のとき、変換辞書登録が可能になります。したがって、構文解析拡張機能が有効であればグループルビでルビ振り時に変換辞書登録が可能です。

4. 構文解析機能の強化

4. 1 処理対象単語の前後の文字列を考慮したルビ振り

文字列内の単語(漢字で構成される単語)が1文字の場合、1文字の単語の前後の文字列を考慮したふりがな変換を行います。

例)

文字列「コロナ禍のピーク時の生活」に対してルビ振りを行うと、
前バージョンでは「コロナ^{わざわい} 禍^とのピーク^{とき}時の生活^{せいかつ}」とルビ振りされました。
新バージョンでは「コロナ^か 禍^かのピーク^じ時の生活^{せいかつ}」とルビ振りされます。

4. 2 変換辞書を使用した Word が検出した単語の補正

グループルビをモノルビに変換するための変換辞書を、Word が検出した単語のチェックおよび補正に使用します。Word が不正確な単語を検出しても、本アプリは変換辞書を参照することにより正確な単語処理を行います。

例 1)

文字列「坂本内野手」、Word は「坂本内」と「野手」の2つの単語を検出します。
変換辞書に下記のように登録します。

「坂本（さかもと）、坂（さか）本（もと）」

「内野手（ないやしゅ）、内（ない）野（や）手（しゅ）」

変換辞書登録後、本アプリは「坂本」と「内野手」の2つの単語として処理します。

例 2)

文字列「四川省成都」、Word は「四」「川省」「成」「都」の4つの単語を検出します。
前バージョンでは「四（よん）川省（かわしょう）成（しげる）都（と）」とルビ振りされました。

変換辞書に下記のように登録します。

「四川省（しせんしょう）、四（し）川（せん）省（しょう）」

「成都（せいと）、成（せい）都（と）」

新バージョンでは「四川省（しせんしょう）成都（せいと）」とルビ振りされます。

例 3)

文字列「高野参詣道女人道」、Word は「高野」「参詣」「道女」「人道」の4つの単語を検出します。

前バージョンでは「高野（こうや）参詣（さんけい）道女（みちおんな）人道（じんどう）」とルビ振りされました。

変換辞書に下記のように登録します。

「参詣道（さんけいみち）、参（さん）詣（けい）道（みち）」

「女人道（にょにんみち）、女（にょ）人（にん）道（みち）」

新バージョンでは「高野（こうや）参詣道（さんけいみち）女人道（にょにんみち）」とルビ振りされます。

5. Word に起因するエラー検出時のルビ振りの継続

前バージョンではルビ振り実行中に Word に起因するエラーを検出した場合、本アプリはその時点で処理を中断していました。

新バージョンではルビ振り実行中に Word に起因するエラーを検出した場合、本アプリはエラーとなった段落のみルビ振りをスキップし、以降の段落はルビ振りを続行します。